

SIWI STOCKHOLM
JUNIOR
WATER PRIZE

平成 29 年 3 月 29 日

日本水大賞委員会

名誉総裁：秋篠宮殿下

委員長：毛利 衛 日本科学未来館館長

第 19 回日本水大賞の 各賞が決定しました。

日本水大賞は、水に係わる様々な活動に各地で熱心に取り組んでおられる団体や個人などを顕彰し、これからの活動の発展を期待して進めて参りました。

全国各地の水に係わる活動が更に進み、環境の保全や地域の活性化に大きく貢献できるよう祈念し、第 19 回日本水大賞の各賞を決定いたしました。

平成 29 年 4 月 1 日より 2018 日本ストックホルム青少年水大賞の募集が始まります。募集締め切りは平成 29 年 9 月 30 日です。第 20 回日本水大賞につきましては例年通り 7 月 7 日から募集開始となる予定です。

大 賞（副賞 200 万円） 福岡県 学校

活動主体の名称： 久留米市立金島小学校

活動の名称： 創作劇「とこしま堰物語」の公演活動

～地域の資源（筑後川）を活かした教育活動～

1. 日本水大賞（日本ストックホルム青少年水大賞含む。）について

日本水大賞は、日本水大賞委員会（名誉総裁 秋篠宮殿下、委員長 日本科学未来館館長 毛利 衛）、国土交通省が主催し、安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる 21 世紀の日本を目指して、水循環系の健全化に向けた諸活動を広く顕彰し、活動を支援するため平成 10 年 6 月 22 日に創設されました。今回で第 19 回を迎えます。我が国で水環境における全ての団体、個人の研究活動を対象にした唯一の賞であり、大賞以下、水行政に関わる 6 省に大臣賞を設けています。詳しくは「資料 1」をご参照下さい。

2. 日本水大賞の各賞について

日本水大賞は、水循環系の健全化を図る上で社会的貢献度が高く、総合的な見地からみて特に優れたものに対して大賞が贈られます。その他、特に優れたものに対して国土交通大臣賞、環境大臣賞及、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、文部科学大臣賞、経済産業大臣賞、市民活動賞、国際貢献賞、未来開拓賞、審査部会特別賞を授与する事としています。

また日本ストックホルム青少年水大賞について、大賞受賞者には 8 月にスウェーデンで開かれる国際コンテスト【Stockholm Junior Water Prize】に日本代表として参加して頂きます。その他にも審査部会特別賞を授与する事としています。

3. 日本水大賞の応募状況

第 19 日本水大賞の募集は、平成 28 年 7 月 7 日（川の日）に募集告知を行い、同年 10 月 31 日に締切りました。第 19 回日本水大賞には全国より 136 件の応募がありました。

4. 各賞の決定について

日本水大賞の各賞の決定は審査部会において厳正な審査を行い、最終的に平成 29 年 3 月 6 日（月）の日本水大賞委員会において「資料 2」のとおり決定致しました。受賞の理由、評価につきましては「資料 3」にございます。

なお、日本水大賞委員会及び審査部会の構成メンバーは、「資料 4」のとおりです。

5. 表彰式及び受賞活動の発表会の開催について

日 時：平成 29 年 7 月 11 日(火)

会 場：東京都江東区 日本科学未来館

お問合せ先

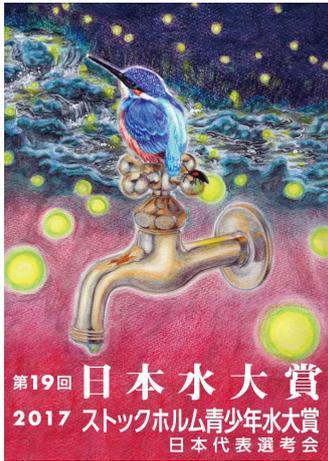
日本水大賞委員会

公益社団法人日本河川協会

〒102-0083 東京都千代田区麴町 2-6-5

TEL：03-3238-9771 FAX：03-3288-2426

担当：主任研究員 田畑 雄基



日本水大賞

JAPAN WATER PRIZE

水

の惑星—地球を形容するのにこれほど適した言葉はないでしょう。水は自然界を循環し、地球上あらゆる生物の生命を育み、生存を支え、汚染を浄化してきました。特に日本においては古来より美しい水を誇り、私たちはその恩恵に浴してきました。私たちはこの美しい水を次世代の子どもたちに受け継ぐことができるのでしょうか……。

平成 10 年 6 月、安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる 21 世紀の日本と地球を目指し、水循環の健全化に寄与することを目的として、日本水大賞顕彰制度委員会（委員長 東京大学名誉教授、国連大学上席顧問 高橋 裕氏）が公益社団法人日本河川協会内に設立されました。第 7 回から日本水大賞委員会に名称を変更し、第 12 回より委員長は日本科学未来館館長で宇宙飛行士であった毛利衛氏となり現在委員 13 名及び特別委員 6 名で構成されております。

また、第 17 回より国土交通省が主催者として協働しております。

日本水大賞委員会は、水循環の健全化に寄与する個人、諸団体の地道な研究活動を応募、顕彰し、広く全国に紹介、啓発するための「日本水大賞」を主催し、第 1 回日本水大賞の表彰式・受賞活動発表会が平成 11 年 3 月に秋篠宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ盛大に開催されました。また秋篠宮殿下におかれましては、平成 17 年 5 月より日本水大賞委員会名誉総裁にご就任されております。

第 1 回の日本水大賞は大賞の他大臣賞として建設大臣賞、国務大臣環境庁長官賞（当時）が贈られました。その後第 3 回（平成 13 年 5 月）から厚生労働大臣賞、第 6 回（平成 16 年 6 月）から農林水産大臣賞及び文部科学大臣賞、そして第 8 回からは経済産業大臣賞が加わり、水環境行政に関わる全ての 6 省から贈られるまでになりました。また、第 4 回（平成 14 年 5 月）からはスウェーデンで開催される青少年を対象とした権威ある国際コンテスト、ストックホルム青少年水大賞に参加する日本代表の選考を兼ねた日本ストックホルム青少年水大賞（青少年研究活動賞から改称）が設けられました。2004 年の日本代表、沖縄県立宮古農林高等学校はアジアで初めての大賞（グランプリ）を獲得しました。また、2006 年は京都府立桂高等学校が準グランプリを獲得しました。

今年で第 19 回となる日本水大賞は、これまで応募総数、延べ 3724 件に達し、大賞以下表彰された個人、団体は、のべ 297 件を数えます。後援をいただくのは、環境省、厚生労働省、農林水産省、文部科学省、外務省、経済産業省の他、関係 34 団体。協賛企業は 5 社 1 団体であり、日本における水環境問題を研究活動する全ての個人、団体を対象とした唯一の賞として、多くの活動される方々の励み、目標となり、広く国民に水循環の健全化の重要性を啓発する機会として発展を遂げてきました。



対象範囲

(1) 対象となる活動の内容（活動分野）

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、以下のような分野における諸活動（研究、技術開発を含む）を対象とします。

①水防災：

- ・水災害に対する安全性の向上に資する技術を開発し、普及する（ハイテク機器、文化財、ライフライン等を水災害から守る）
- ・雨をためる、しみこませる、ゆっくり流す
- ・河川の伝統的技術や災害体験の継承等啓発・普及

②水資源：

- ・水を大切にす
- ・山や川などの水源地を大切にす
- ・異常渇水のときに被害を少なくす

③水環境：

- ・川や湖沼、海などの水をきれいにす
- ・水辺の生き物やそのすみかを大切にす
- ・水辺や水のある地域づくり
- ・水に関わる体験活動

④水文化：

- ・水や川や湖沼、海などに対する敬意と親愛を高める
- ・水や川や湖沼、海などの文化を創る、又は広める（芸術、文学を含む）
- ・地域における水文化を発掘、又は普及させる

⑤復興：

- ・上記①から④に該当する諸活動のうち、地域の復興の視点から実施されるもの
- ※ その他、上記①～⑤に関係する国際的な連携・技術協力・学会活動



(2) 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、以下のような方々が実施する諸活動を対象とします。なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して、以下の賞を授与し、広く公表します。

①大賞【グランプリ】（賞状・副賞 200 万円）

水循環の健全化を図る上で、活動内容が幅広くかつ社会的貢献度が高く、総合的見地から特に優れたものに対して授与します。

②大臣賞【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】【厚生労働大臣賞】【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】

【経済産業大臣賞】（賞状・副賞 50 万円）

各省の行政目的に関係の深いものの中から、特に優れたものに対して授与します。

③市民活動賞【読売新聞社賞】（賞状・副賞 30 万円）

市民活動の中から、特に優れたものに対して授与します。

④国際貢献賞（賞状・副賞 30 万円）

活動の範囲や効果が国際的であり、人・文化・技術の日本との交流も含め、大きな功績をあげていると考えられるものに対して授与します。

⑤未来開拓賞（賞状・副賞 10 万円）

国内外を問わず水分野における新たな展開を対象とし、特に優れたものに対して授与します。

⑥審査部会特別賞（賞状・副賞 10 万円）

活動がユニークなものなど、審査部会において特に表彰に値すると判断されたものに対して授与します。

⑦日本ストックホルム青少年水大賞（賞状・副賞 20 万円及び国際コンテスト参加の渡航、滞在費用）

20歳以下の高校生または同等の学校に在籍する生徒又はその団体での研究活動から優れたものに対して授与します。その他、審査部会で表彰に値すると判断されたものは、委員会での承認を経て、優秀賞及び審査部会特別賞が授与されます。

第19回日本水大賞 各賞（応募総数136件）

各賞	活動主体	都道府県	活動の名称	活動主体の名称
大賞	学校	福岡県	創作劇「とこしま堰物語」の公演活動 ～地域の資源(筑後川)を活かした教育活動～	久留米市立金島小学校
国土交通大臣賞	企業	千葉県	“次世代へ繋ぐ”利根川水域交流連携 ～交流人口拡大と舟運ネットワーク創出がもたらす地域活性化～	PFI佐原リバー株式会社
環境大臣賞	団体	福井県	多様な命 つながる九頭竜川へ ～サクラマスを河川環境の指標として～	サクラマス・レストレーション
厚生労働大臣賞	団体	東京都	ネットワーク活動でアジア地域に安全な水を広げよう	WaQuAC-NET
農林水産大臣賞	学校	福島県	震災復興へ向けた取り組みを自分たちの手で	福島市立渡利中学校 科学部
文部科学大臣賞	学校	静岡県	地域と歩む麻機遊水地保全活用プロジェクト「麻活」	静岡県立静岡北特別支援学校
経済産業大臣賞	企業	大阪府	循環型環境ストレスフリーを実現したタオル生産プロセスの構築	株式会社スマイリーアース
市民活動賞	団体	栃木県	余笹川をフィールドにした新たな水文化創造活動	余笹川流域連携ネットワーク
国際貢献賞	団体	愛知県	有機農業を広め、水源の森を守ろう！	特定非営利活動法人イカオ・アコ
未来開拓賞	学校	東京都	災害時に役立つ樹木を利用した雨水を集水する研究活動	八丈町立富士中学校 自然科学部
未来開拓賞	学校	大阪府	南河内地域の水環境保全 ～アユとゲンジボタルの再生活動を通して～	大阪府立富田林高等学校 科学部
未来開拓賞	団体	東京都	ゲリラ豪雨展・雨といきもの展全国75館巡回企画展示	水の巡回展ネットワーク
審査部会特別賞	企業	北海道	北海道e-水プロジェクト	北海道コカ・コーラボトリング株式会社
審査部会特別賞	団体	宮城県	「水の神さま」を通じた市民と農村住民・被災地域住民との交流	公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
審査部会特別賞	団体	岐阜県	水と川を学ぶために ～親子教室と体系化学習のアプローチ～	特定非営利活動法人e-plus生涯学習研究所

2017日本ストックホルム青少年水大賞 各賞（応募総数13件）

各賞	活動主体	都道府県	調査研究の表題	学校・クラブ名
大賞	学校	京都府	リン酸マグネシウムアンモニウム(MAP)を活用した 革新的な堤防維持管理技術の開発	京都府立桂高等学校 地球を守る新技術の開発研究班
審査部会特別賞	学校	岐阜県	カワニナを通して考える地域の生態系	岐阜県立岐山高等学校 生物部 カワニナ班

第19回日本水大賞 各賞 選定理由

大賞 (副賞 200万円) 福岡県 学校

活動主体の名称：久留米市立金島小学校

活動の名称：創作劇「とこしま堰物語」の公演活動
～地域の資源（筑後川）を活かした教育活動～

○受賞理由

日本の大河が形成した平野は、洪水のときは氾濫し、普段は引水できない地域が多い。ここが肥沃な穀倉地帯となるのは、先人たちの努力の賜物であり、中には、郷土のために私財を投げ打ち、用水施設を整備した例もあります。

筑後川流域にある金島小学校の地域は、300年前に人々を干害から救うため、5人の庄屋が立ち上がり、私財、身命を賭して床島堰・床島用水を築造して現在に到っています。金島小学校の校歌は、筑後川や5人の庄屋が偲ばれる歌詞となっています。

同校では、総合的な学習として、児童全てが学年で段階を踏みながら、筑後川や床島堰・床島用水を実地で学習した後、5・6年生を中心とした創作劇「とこしま堰物語」を上演することを、20年にわたって継続されています。

子供たちが、故郷の筑後川を題材に、先人達の偉業を学び、演劇上演で終わるという一貫した総合学習は、水とともに生きてきた日本や地域固有のアイデンティティを実感することができるとともに、長期間にわたり継続されていることから、大賞にふさわしく、日本水大賞を授与することにしました。

国土交通大臣賞 (副賞 50万円) 千葉県 企業

活動主体の名称：PFI 佐原リバー株式会社

活動の名称：「次世代へ繋ぐ」利根川水域交流連携
～交流人口拡大と舟運ネットワーク創出がもたらす地域活性化～

○受賞理由

PFI 佐原リバー（株）の活動は「水の郷さわら・川の駅・道の駅」を拠点とし、観光協会と協働した親水イベントの開催や水郷文化を体験学習できる舟運の運営だけでなく、市民による水防災、歴史伝承、緊急時対応の実践など、流域における行政区域を越えた様々な活動に及んでいます。

東日本大震災では、拠点が被害を受け、一時活動を休止しましたが、新規の航路を開拓するなど、広域舟運ネットワークを創出し、賑わいを取り戻しています。

舟運後継者の育成を目的とした船舶免許教室は延べ1200人以上が受講したほか、災害時に利用できるボートの操船大会の開催なども定着しています。また、利根川下流域全体のハザードマップを作成し、水防災の基礎知識から利根川の歴史文化まで含めた防災教育に取

り組み、これまでに16万人を超える人が学習しました。

行政・団体と交流、協議、協働して、地域の活性化、観光振興、後継者の育成、防災教育を実践していることは、多くの地域の参考となるでしょう。加えて、こうした活動が、株式会社として成立し、継続していることは、民間活力による地域創生という観点からも模範になると考え、国土交通大臣賞を授与することとしました。

環境大臣賞（副賞50万円） 福井県 団体

活動主体の名称：サクラマス・レストレーション

活動の名称：多様な命 つながる九頭竜川へ
～サクラマスを河川環境の指標として～

○受賞理由

サクラマス・レストレーションは、九頭竜川において、サクラマスのフライ・フィッシングを趣味とする人々が、サクラマスを河川環境の指標種と位置づけし、いつまでもサクラマスが回帰する九頭竜川を未来に残そうと、結成された団体です。

その活動は、サクラマスの生態を研究し、行政や漁協と協働して河川の連続性や産卵の河床環境を改善している点や地域の子供たちに環境学習や体験学習をしている点など、地域密着型行動力は、見事です。

趣味を通じて集まった団体が、親睦団体の域を越え、河川における多様な生態系維持の実働団体として地域に認知されており、他の河川流域にも普及してほしいケースとして、環境大臣賞を授与することとしました。

厚生労働大臣賞（副賞50万円） 東京都 団体

活動主体の名称：WaQuAC-NET

活動の名称：ネットワーク活動でアジア地域に安全な水を広げよう

○受賞理由

国連では、2030年までに、すべての人々に安全で安価な飲料水の普遍的かつ衡平なアクセスを達成することを目標としています。

日本は、明治以降、上水道が整備され、世界最高水準の水道システムと水道技術を保有しています。ワクワクネットは、JICA人材育成プロジェクト有志が、アジア各国の水道関係者に呼びかけ設立した団体であり、こうした日本における水道システムの整備・運営で培われたノウハウを、インターネットを通じてアジア地域の水道事業者に伝授する活動を行っています。

インターネットにより、アジアの水道事業者から寄せられた問題点に対し、水道に関わるさまざまな専門家が実践的解決策を素早く提示して問題解決に効果を挙げているほか、また内容によっては日本の専門家を派遣しています。

日本の水道専門家たちが、アジアの水道関係者とネットワークを作ったこと、ITの活用を通じ、効率的かつ的確に問題解決に結び付けていることは、日本の国際的地位向上に大きく貢献されていることから、厚生労働大臣賞を授与することとしました。

農林水産大臣賞（副賞 50 万円） 福島県 学校

活動主体の名称：福島市立渡利中学校 科学部

活動の名称：震災復興へ向けた取り組みを自分たちの手で

○受賞理由

東日本大震災から6年が経過しましたが、福島県では、基幹産業である農業も沿岸域の農地が津波による甚大な被害を受け、現在も、農業・農村の復旧・復興が行われています。

渡利中学校科学部は、自分たちにできる「震災復興」として農業に着目した研究活動を行ってきました。特に、津波を被った塩害土壌での野菜栽培の研究では、コマツナやハダイコンの栽培を行い耐塩性が高く、野菜栽培を通しての復興に有効であることを見つけ出しました。また、水草のホテイアオイを用いた実験では、塩分を吸収する能力を明らかにすることにより、田畑に水を張って土壌中の塩分を溶かし出し、ホテイアオイで吸収する方法を提案しました。郷土の大災害に直面し、自分たちができる復興をという志も立派であり、生徒自ら主体的に研究活動をしているさまは若い世代を鼓舞することでしょう。多くの若者が主体的に活動して地域を元気にしていただきたいと考え、農林水産大臣賞を授与することとしました。

文部科学大臣賞（副賞 50 万円） 静岡県 学校

活動主体の名称：静岡県立静岡北特別支援学校

活動の名称：地域と歩む麻機遊水地保全活用プロジェクト「麻活」

○受賞理由

静岡北特別支援学校は、小学校1年から高等部3年までの知的障害のある児童360名が在籍します。学校は、日本重要湿地に指定されている麻機遊水地群の中央にあり、2014年から、遊水地群をフィールドに、自然再生、環境保全、治水・防災等の切り口から、教育活動を行なっています。ただの教育活動ではなく、地域住民、NPO、専門家、企業等で構成された「麻機遊水地保全活用推進協議会」に加盟し、地域と協働した総合的な活動であること、活動が、生徒の学習のみに留まらず、遊水地の自然再生、環境保全に結びついていること、刈り取ったヨシを紙等に製品化していること、知的障害者への偏見が解消されたことなど、素晴らしい成果を挙げています。

麻機遊水地を愛する活動に障害者も健常者もなく地域住民と一体となり、いきいきとこの遊水地に関わっている様子が伺えます。同校の活動が地域住民に頼りにされている状況を高く評価し、文部科学大臣賞を授与することとしました。

経済産業大臣賞（副賞 50 万円） 大阪府 企業

活動主体の名称：株式会社スマイリーアース

活動の名称：循環型環境ストレスフリーを実現したタオル生産プロセスの構築

○受賞理由

大阪府泉佐野市は「日本タオル製造発祥の地」であり、今治市と並んでタオルの一大生産地です。しかながら、タオル製造は大切な地場産業である一方、化学薬剤を大量に使うなど地域の河川の水質を悪化させてきました。

タオル製造販売の(株)スマイリーアースは、9年をかけ、環境負荷が少ないタオル生産技術を確立しました。すなわち、原材料をアフリカ・ウガンダ産の有機コットンに定め、製造工程の大幅な見直しと創意工夫により、これまでと比較して化学薬剤使用量を400分の1、化石燃料使用量を5分の1、産業廃棄物産出量を600分の1にする効果をあげています。製造過程の処理水は、自然浄化プールにおいて水生生物などで、さらに浄化が進む仕組みを取り入れています。処理水は有機肥料水となり、農業へ再利用しています。

こうした取組は、商品の差別化になるとともに、地域の環境負荷を最小化し、水循環健全化に繋がる点で素晴らしく、また、海外を含めた他地域への波及も期待できることから、工業の発展、技術振興、中小企業の振興に特に寄与すると考え、経済産業大臣賞を授与することとしました。

市民活動賞（副賞 30 万円） 栃木県 団体

活動主体の名称：余笹川流域連携ネットワーク

活動の名称：余笹川をフィールドにした新たな水文化創造活動

○受賞理由

平成10年8月、栃木県下の一級水系那珂川で発生した水害を契機に、支川余笹川、黒川、四ツ川が4年間で改修されました。翌年、余笹川流域連携ネットワークが発足し、川と親しむイベントや作業を始めます。水質調査、魚類調査、河道調査も織り交ぜ、河川改修後の経年変化を把握するという、科学的アプローチも素晴らしい。毎年9月に開催されている「よささウォーク」は、ゴミ拾いも兼ね、県内外から多くの参加者を集めていることから、市民活動賞にふさわしいと判断しました。

国際貢献賞（副賞 30 万円） 愛知県 団体

活動主体の名称：特定非営利活動法人 イカオ・アコ

活動の名称：有機農業を広め、水源の森を守ろう！

○受賞理由

特定非営利法人イカオ・アコは、3年間 JICA の草の根技術協力事業として、フィリッ

ピンパタグ村バリグワン地区で、住民団体を組織化し、植林事業と生計向上事業（養鶏事業）を行ないました。それ以降、高地に灌漑水路を整備し、4 h a において有機農業を技術指導します。そして、そこから得られる収入の5%は、植林のメンテナンスに当てるため住民団体に寄付される仕組みを作りました。

川の水は、電力モーターを使わず、水流の力で揚水するランポンプを採用している点、水源林の不法伐採を防ぎ整備保全を図るべく、住民の生計向上と植林のメンテナンスを両立させている点など、草の根技術協力として素晴らしい効果を収めていることから、国際貢献賞を授与することとしました。

未来開拓賞（副賞 10 万円） 東京都 学校

活動主体の名称：八丈町立富士中学校 自然科学部

活動の名称：災害時に役立つ樹木を利用した雨水を集水する研究活動

○受賞理由

富士中学校自然科学部は、樹木の幹元にひもを巻き、その先をペットボトルを入れて水を集めるという調査を、樹木別に行ないました。その結果、集水量が多くなるのは、枝の角度が30度以上で、上向きの小枝と葉が多く、枝の表面が滑らかであることを見出しました。

淡水が貴重な島国ならではの研究であり、災害時にも役に立つ可能性を秘めています。身近なもので、水を得るというアイデアも、素晴らしい。今後の展開を期待して、未来開拓賞にふさわしいと判断しました。

未来開拓賞（副賞 10 万円） 大阪府 学校

活動主体の名称：大阪府立富田林高等学校 科学部

活動の名称：南河内地域の水環境保全

～アユとゲンジボタルの再生活動を通して～

○受賞理由

南河内地域を流れる石川では、1970年代の急激な水質汚濁、1980年代の急激な宅地開発、1980年代後半から進められた河川改修により、それまで生息していたアユやゲンジボタルがほぼ絶滅に近い状況でした。

同校科学部では、これらの再生を目標に掲げ、地元の大学、行政ネットワークなどに協力を求め、100名以上のボランティアの参加を得て手作り魚道を完成させ、アユの遡上に成功しました。

この地元を巻き込んだ活動は、環境保全や教育の活動の手本となり、今後の活動の発展にも期待が持てるため、未来開拓賞にふさわしいと判断しました。

未来開拓賞（副賞 10 万円） 東京都 団体

活動主体の名称：水の巡回展ネットワーク

活動の名称：ゲリラ豪雨展・雨といきもの展全国 75 館巡回企画展示

○受賞理由

水に関する展示物に創意工夫を凝らし、子供にも分かるよう工夫している点、また全国の資料館や博物館に巡回展示を行なっている点は、他に例が無く、秀逸の活動だと思われます。6 年間に、ゲリラ豪雨展と雨と生き物展を 75 館で開催されており、今後も新たな展示企画が進んでいます。さらに多くの子供たちに水防災および水環境を身近に知ってもらい、未来を担っていただくことを期待し、未来開拓賞がふさわしいと判断しました。

審査部会特別賞（副賞 10 万円） 北海道 企業

活動主体の名称：北海道コカ・コーラボトリング株式会社

活動の名称：北海道 e-水プロジェクト

○受賞理由

北海道は、大小さまざまな河川や湖沼が存在し、全国の湿地の約 86%が集中し、積雪の多さなどから世界的に見ても貴重な水の大地といえます。この水の大地を、健全な形で次世代に引継いでいくことが重要です。

北海道コカ・コーラは、地域限定商品の売り上げの一部を使い、北海道、北海道環境財団の 3 者協働事業として、北海道 e-水プロジェクトを実施しています。このプロジェクトは、水環境保全を目的としたフォーラムを開催したり、水生外来種駆除など環境保全活動を支援したりしています。

企業が、社会的役割を認識して消費者と水循環健全化活動を結び付けていること、企業と行政と団体と協働することで実効性が高いことは特筆に値します。こうした企業活動がさらに盛んになることを願い、審査部会特別賞にふさわしいと判断しました。

審査部会特別賞（副賞 10 万円） 宮城県 団体

活動主体の名称：公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

活動の名称：「水の神さま」を通した市民と農村住民・被災地域住民との交流

○受賞理由

先人たちは、水の大切さ、恐ろしさを実感して敬い、地域で様々な「水の神さま」を祀ってきました。その「水の神さま」は、開発や世代交代、自然災害により消失しつつあり、地域の歴史や先人たちの思いも後世に伝わらなくなってきています。

当活動は、「水の神さま」についての言い伝えや歴史を、地域の人々に取材し、水の大切さや教訓をマップや冊子にまとめ、WEB で発信してきたユニークなものです。

活動地域は、東日本大震災によりコミュニティーが大きく変容しましたが、「水の神さま」を切り口に調査を行う中で、コミュニティー復興の象徴となっている神社や祭りの重要性に気付き、水文化の伝承に取り組む人々と市民の交流会を開催しています。

地域住民が、水にまつわる伝承や歴史を共有していく活動は、水文化だけでなく、水防災、水資源の重要性の気付きに結びつくことから、審査部会特別賞にふさわしいと判断しました。

審査部会特別賞 （副賞 10 万円） 岐阜県 団体

活動主体の名称：特定非営利活動法人 e-plus 生涯学習研究所

活動の名称：水と川を学ぶために

～親子教室と体系化学習のアプローチ～

○受賞理由

NPO 法人がコーディネーターとなり、自然と川と水に関連した「親子教室」を行い、「体験」「ものづくり」を親子で行う機会を市民に提供してきました。参加者は年に 1000 人を超えます。

学校では環境学習の時間が少なくなる中、この「水環境学習の体系化」のプログラムを学校での学習に導入し、子供たちが楽しみながら体験学習出来るようになりました。また地域、地元企業、学校、自治体と連携し、それぞれの得意な部分を活かした体験学習ができる体制を作り、岐阜県内でも徐々に広がりを見せています。こうした活動が、さらに充実普及することを願い、審査部会特別賞にふさわしいと判断しました。

第19回日本水大賞委員会 委員名簿

名誉総裁 秋篠宮文仁親王殿下		
役職	氏名	所属・職名
委員長	毛利 衛	日本科学未来館 館長
副委員長	虫明 功臣	東京大学 名誉教授
委員	赤星 たみこ	漫画家
委員	大垣 眞一郎	公益財団法人水道技術研究センター 理事長
委員	大島 一哉	(株)建設技術研究所 会長
委員	進士 五十八	公立大学法人 福井県立大学 学長
委員	須藤 隆一	生態工学研究所 代表
委員	谷田 一三	大阪市立自然史博物館 館長
委員	名執 芳博	NPO法人日本国際湿地保全連合 会長
委員	樋口 靖	一般社団法人日本建設業連合会 環境委員長
委員	松田 芳夫	一般社団法人 全日本建設技術協会 技術顧問
委員	三浦 啓一	一般社団法人日本経済団体連合会 廃棄物・リサイクル部会長代行
委員	溝口 烈	読売新聞東京本社 専務取締役編集局長
特別委員	武藤 浩	国土交通事務次官
特別委員	小林 正明	環境事務次官
特別委員	二川 一男	厚生労働事務次官
特別委員	奥原 正明	農林水産事務次官
特別委員	戸谷 一夫	文部科学事務次官
特別委員	菅原 郁郎	経済産業事務次官

*委員は50音順

第19回日本水大賞審査部会 委員名簿

役 職	氏 名	所 属・職 名
部会長	虫明 功臣	東京大学 名誉教授
委 員	赤星 たみこ	漫画家
委 員	浅枝 隆	埼玉大学大学院理工学研究科 教授
委 員	浅羽 雅晴	国立研究開発法人 科学技術振興機構 広報参与
委 員	安藤 茂	公益財団法人 水道技術研究センター 専務理事
委 員	池田 裕一	宇都宮大学大学院工学研究科 教授
委 員	太田 進	一般社団法人海外環境協力センター 専務理事
委 員	大野 重男	公益財団法人ハーモニセンター 理事長
委 員	風間 ふたば	山梨大学大学院国際流域環境研究センター 教授
委 員	久保 成隆	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
委 員	重 政子	NPO法人自然体験活動推進協議会 評議委員
委 員	清野 聡子	九州大学大学院工学研究院 准教授
委 員	高木 宏明	一般社団法人 日本環境衛生施設工業会 専務理事
委 員	滝田 恭子	読売新聞東京本社 科学部長
委 員	玉岡 かおる	作家
委 員	藤山 秀章	公益財団法人 河川財団 参事
委 員	森 誠一	岐阜経済大学経済学部 教授
委 員	山田 正	中央大学理工学部 教授

*委員は50音順